

1	1B	国語（小） 表現書写	岡崎市立六ツ美西部小学校 中野 良彦
---	----	---------------	--------------------

2 研究テーマ

既習事項を活用し、夢中になって表現したくなる国語科の授業
—2年生「たんぽぽ」「こんなことをしているよ」の実践から—

3 研究概要

(1) 主題設定の理由

本学級は、読書の時間や読み聞かせの時間を楽しみにしている子が多い。日直のスピーチでは、早く皆の前で話したいと、日直が回ってくるのを心待ちにしている子もいる。

ところが、年度初めのアンケートで、多くの子が国語の学習に対しては苦手、嫌いだという意識を持っていることが分かった。その理由として多かったものは、「①漢字が苦手」「②文章を書くことが苦手」であった。また、スピーチでは、お題に対する自分の答えと、簡単な理由や気持ちを述べるだけで、10秒足らずでスピーチを終えてしまう子が多い。週末の宿題にしている作文も、詳しく書ける子は少ない。

そこで、国語の学習に対して主体的に取り組むことができ、自分の考えや気持ちをもっと詳しく表現できる子供を育成したいと考え、目指す子供像を次のように設定した。

①既習事項を生かし、できることが増える喜びを実感しながらさらに学ぼうとする子。

②文章との対話、友達との対話を元に、言葉にこだわって表現活動に取り組む子。

子供が自ら「相手に伝えたい」と思うような授業を目指し、「既習事項を活用し、夢中になって表現する国語科の授業」を研究テーマとして、2年生「たんぽぽ」「こんなことをしているよ」を教材に、国語の系統性を意識して授業実践を行うことにした。

(2) 研究の仮説と手立て

a 仮説

目指す子供像に迫るために、以下のような仮説を立てて実践を行うことにした。

魅力的な導入の工夫、明確な学習の見通しや振り返りの充実、個人で考える時間と仲間と考える時間の保障をすることで、子供たちは既習事項を駆使しながら夢中になって表現活動に取り組めるようになるだろう。

なお、ここでの「夢中」とは、「伝えたいことがより伝わるように、言葉にこだわる姿」である。

b 手立て

実践における手立てを、以下のように設定した。

(ア) やってみたいと思えるような、導入の工夫

子供たちが学習に夢中になれるかどうかは、まず「おもしろそうだ」「考えてみたい」と思えるかどうか重要だと考える。生活科の学習と関連付けることで切実感を高めたり、誤りのあるモデル文を提示することで間違いを直す意欲を引き出ししたりして、子供たちが学習に夢中になるきっかけを導入で作り出す。

(イ) 学習の価値付けをする明確な見通しの提示と、次につなげる振り返りの充実

この学習で何を学ぶのか。学ぶことで何ができるようになるのか。できるようになるとどんないいことがあるのか。教科書に明記されている「ことばの力」を大切に、単元の初めにはっきりと見通しがもてる

ようにする。また、学習の意欲を高める自己評価シートの活用や、学習したことをいつでも振り替えられる掲示を充実させることで、既習事項を次に生かしやすい環境を整える。

(ウ) 一人で追求する時間と仲間と考える時間の保障

一人でじっくり考える時間を確保するとともに、自分の表現と友達の表現を比較する場を設ける。自分の考えをもって他と比べることで、いろいろな表現があるおもしろさや、伝えたいことがよりよく伝わる言葉選びの価値に気づき、自分の表現に生かすことができる。

c 抽出児について

Aは読書が好きで、語彙力が高い。授業でもよく発言ができる。しかし、作文に「ぼくは国語が大きいです。」と書くほど、国語の学習、特に「書くこと」に対して面倒くさいという抵抗感をもっている。Aの言葉の力を認め、授業で生かすことは、周りの子供たちの学びにもつながる。友達から認められることで、Aが書いて表現することに夢中になれることを期待する。

Bは人前で話すことが好きで、スピーチでも息の長い話ができる。一方で、作文では誤字脱字が目立ったり、一文が長くて内容が伝わりづらかったりすることがある。学習したことや友達の意見を生かし、順序立てて言葉にこだわりながら表現できるようになることを期待する。

学習活動	時間	教師の支援
○どんな「はる」を見つけたかな ・桜の木、パンジー ・テントウムシ、幼虫、チョウの卵 ・タンポポ(自然ランド、プールの裏、校庭の隅、道路、家の庭…)	(2)生活科	○生活科で春みつけの活動をする際に、たんぽぽが目に向くように声掛けを行う。 ○1か所ではなく様々な場所にタンポポが咲いていることに気付くために、たんぽぽを見つけた場所を問う。 ○たんぽぽについて興味がわくように、どうしてこんなにたくさん場所咲いているのかなと問いかける。
○たんぽぽについて、こんなことをしているよ ・たんぽぽについて知っていることを伝え合う。	1	○たんぽぽについての興味がわくように、現在子供たちが知っているたんぽぽについての知識を共有する。 ○教材文を読みたくなる気持ちが高まるように、たんぽぽにはもっとたくさんのひみつがあることを伝える。
○しらなかつたたんぽぽのひみつってなんだろう ・初発の感想で、知らなかつたことや驚いたことを確認する。 ・感想をもとに、わかつたひみつを共有する。	2	○この単元で付けた力が子供たちにも分かるように、教材文を読む前に「言葉の力(じゅんじよを考えて読む)」を確認する。 ○教材文が分かりやすい文章であることを確認するために、わかつたひみつを共有し、たくさん読み取れたことを称賛しつつ、教材文のすばらしさを伝える。
○どうしてわかりやすかつたのかな ・全体の順序(葉→根→花→実→綿毛→種→芽)を整理し、順序よく説明するよさを考える。	4本時(1/4)	○わかりやすい説明をするためには順序が大切だということに目に向ききつかけとするために、説明の順序がおかしい例文を提示する。 ○教材文の説明の順序を分かりやすくするために、「葉、根、花、実、綿毛、種」などのたんぽぽの部分に注目しながら、どのような順で説明されているかを表にまとめる。 ○次時以降も順序に目を向けて詳しく読み取っていくために、説明する順序の大切さに気付いた振り返りを取り上げ、称賛する。
・じょうぶなひみつ(根)について理由と結びつけながら整理する。 ・花のひみつについて、時を表す言葉に着目しながら順序立てて整理する。 ・「このように」というまとめの言葉に注目し、仲間の増やし方のひみつを整理する。		○たんぽぽの部分ごとに、ひみつと理由を読みとる。 ○時間の経過を追って説明する分かりやすさに気付けるように、時を表す言葉を探す。 ○筆者が一番伝えたいひみつが何かを読み取るために、まとめになる言葉に注目し、たんぽぽの仲間の増やし方をまとめる。
○どのひみつをおしえてあげようかな ・伝えたいひみつを選び、説明の順序に気を付けて文章を書く。	2	○お家の人に学習したことを伝えるために、伝えたいひみつを1つ決め、説明する順序を意識して文章を書く。
○どんな力があつたかな ・学んだことを振り返り、今後の学習にどう生かせるかを考える。	1	○本単元で学習したことを振り返る時間を設定し、「言葉の力」について自己評価をする。 ○学んだことを生かすために、生活科で野菜の育て方の順序を確認するときにこの学習が生かせることを伝える。

(3) 実践

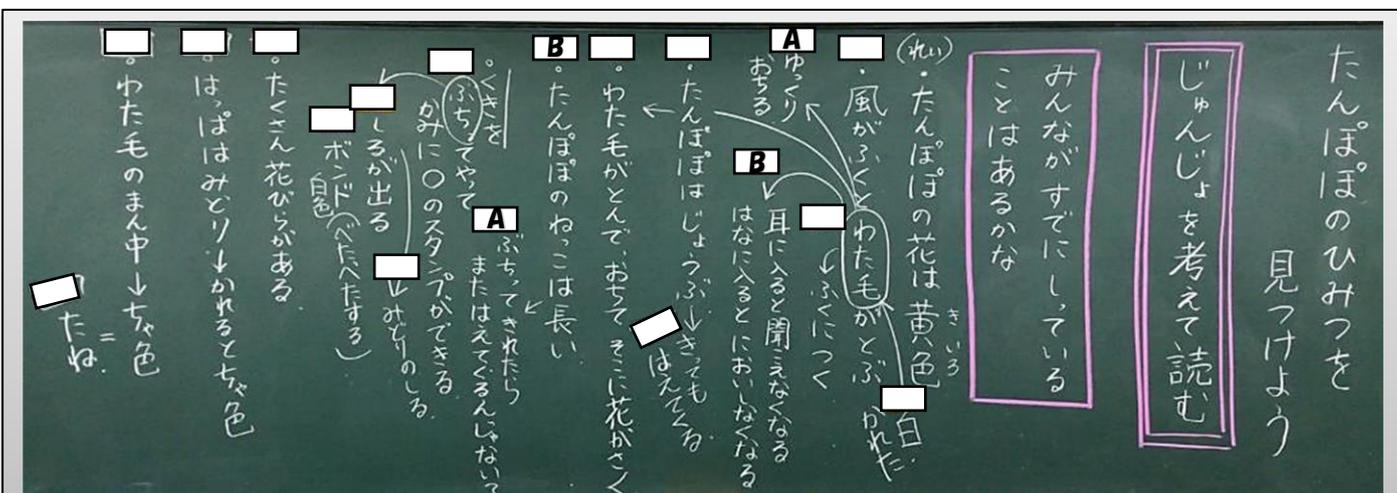
I 「たんぽぽ」

資料1のように計画して実践を行った。

① 実生活との結びつけた導入

生活科で春見つけをした際に、子供たちは校内や通学路、家の庭にたんぽぽがたくさん生えていることに気付いた。「どうしてこんなにたくさん生えているのかな。」「綿毛が飛ぶからだよ。」と知っていることを話す姿があつたので、教材文を読む前に、知っていることを伝え合う時間を設けた(資料2)。

資料1 「たんぽぽ」の単元計画



資料2 たんぽぽについて知っていること

AもBも、友達の発言に関わって自分の知っていることを発言した。資料3はAの振り返りである。Bの発言が、Aの学びにつながったこと、興味関心をもって学習に取り組めたことがうかがえる。

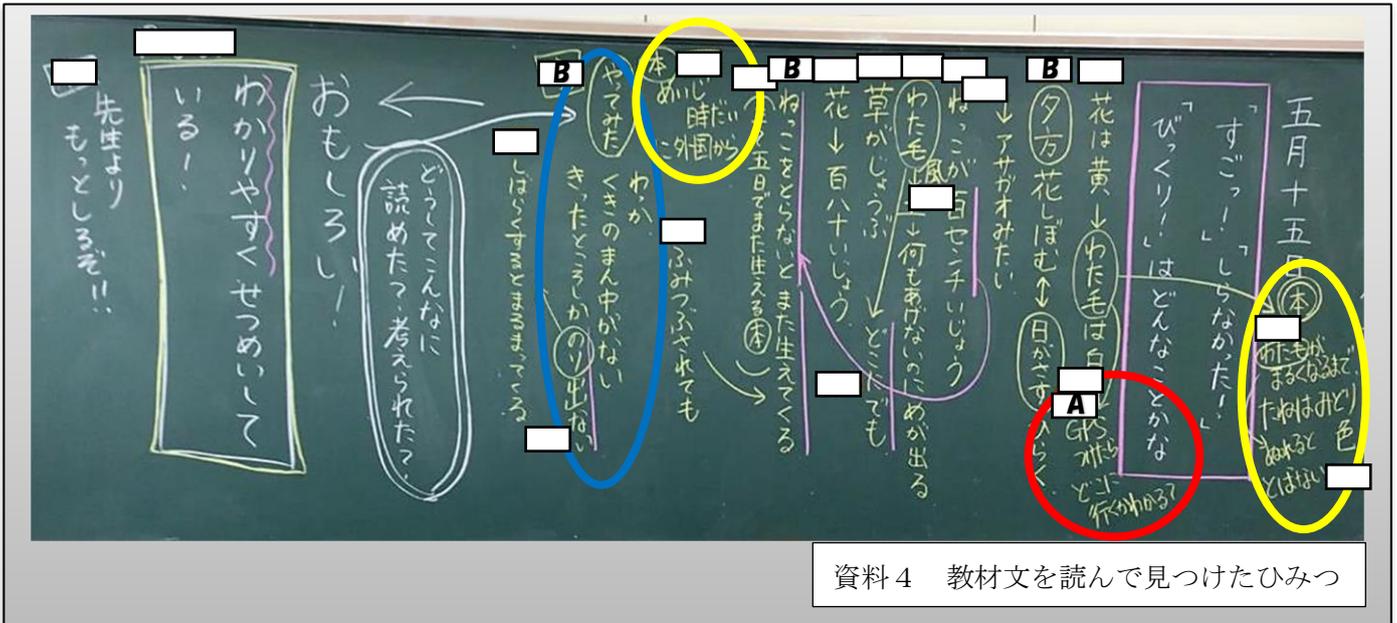
なお、ノートには、「ことばの力」「じゅんじょを考えて読む」と書くように指示し、この単元の学習では、説明の順番に注目して勉強することを確認した。「勉強する前からたくさんを知っていてすごいなあ。でも、教科書にはみんなの知らないたんぽぽのひみつがまだたくさん書いてあるんだよ。説明の順番に気を付けて読んでいこうね。」と伝え、子供たちの読みたくなる気持ちを高めた。



資料3 Aの振り返り①

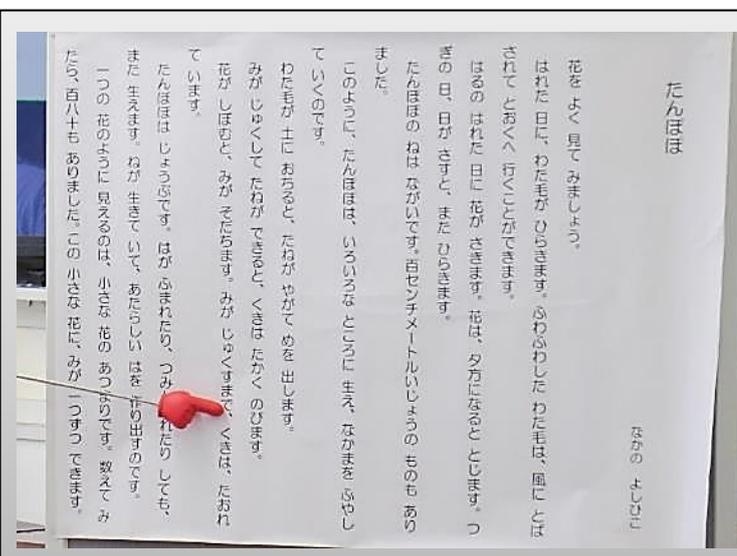
② 教材文との出会い

教材文を一度だけ読み、知らなかったひみつについて子供たちの発言を求めた(資料4)。この教材文のよさは、順序よく説明されているのでとても分かりやすいという点である。予想どおり、子供たちはたった一度読んだだけで、ほぼすべての秘密に気付くことができた。Aは、見つけた秘密に対して気になったことを述べていた(赤丸枠)。Bは、休み時間に自分でやってみたことを発言した(青丸枠)。本で調べて分かったことを皆に伝える子供もいた(黄丸枠)。すでに「たんぽぽ」の学習に夢中になりつつあることがうかがえた。



資料4 教材文を読んで見つけたひみつ

③ 説明する順序の大切さ (分かりやすさの秘密)



資料5 順序の大切さに気付くための手立て

順序の大切さに気付くための手立てとして、順序のおかしいモデル文の提示（資料5左）、並び替えられるカード（資料5右）を用意した。モデル文の説明の順序に違和感を抱いた子供たちは、カードを並べ替える作業にさっと取り掛かった。

資料6の発言から分かるように、Aは導入の段階で順番の違和感に気付いている（赤線）。チームの中でも自分の気付きを伝え、全体でも意見を述べる事ができた。Aの発言（黄線）から、育っていく順番に説明されていることや、まとまりごとに揃えて説明されていることに気づき、教師のモデル文の順序がいかにくちやぐちだったかを全体で振り返ることができた。最終的にBも順序の大切さに気付くことができた（資料7左）。Aは、振り返りに4回連続で「たのしかったよ」に4を付けている（資料7右）。自分の発言が黒板に残り、自分の考えが友達に認められ、自分自身も大切なことに気付くことができた達成感が、国語の授業に抵抗を感じていたAの気持ちに変化を生んでいるのだと考える。

T	先生も説明を書いてみました。
A	先生たんばば！
T	(範読)
A	わかりやすいけど、教科書の方が分かりやすい！
T	なんで教科書の方がいいのかな、Aくん。
A	え？
C1	ちょっとねー。
A	「このようにして仲間をふやしていきます」は最後がいいと思います。 ようするに、 <u>順番が、気持ち悪い！</u>
T	気持ちいい順番ってどんなの？(カード配付)
:	(チームで)
C1	じゃあ、みんな
A	これは最後のがいい！
C2	これは花のことで、、、
C3	実がない
C1	みんなでああ、やってみようよ
A	これがベストなんじゃない？
C1	これ読んでみよう
A	読み比べよう(並び替えたカードと教科書を)
:	(全体で)
T	先生のは花から始まっているのか。変だったね。
A	教科書は、 <u>根→花→実→綿毛の順番</u> で出てるから分かりやすい。
C5	育っていく順番になっている。
C6	花なら花、綿毛なら綿毛って、まとめて説明しているよ。

資料6 授業記録 (Aのチーム中心を中心に部分抜粋)

ふりかえりカード 5月16日 ()番 名前(**B**)

とても すこし あまり まったく

わかったよ 4 3 2 1

たのしかったよ 4 3 2 1

①わかったこと

②やってみたこと

③ともたちのなるほど

④がんばったこと

ふりかえりカード 五月十六日 ()番 名前(**A**)

とても すこし あまり まったく

わかったよ 4 3 2 1

たのしかったよ 4 3 2 1

①わかったこと

②やってみたこと

③ともたちのなるほど

④がんばったこと

資料7 第4時の振り返り

ここで学習した「順序よく説明すると分かりやすい」というポイントは、後の単元の「こんなことをしているよ」の学習で活用したい重要事項である。国語科における系統性を意識し、各単元終了後に「ことばの力」を教室に掲示して、既習事項をいつでも振り返られるようにしておいた（資料8）。

資料8 身に着けた力が分かる掲示

II 「こんなことをしているよ」

資料9のように計画して実践を行った。

① 単元の見通しをもつ

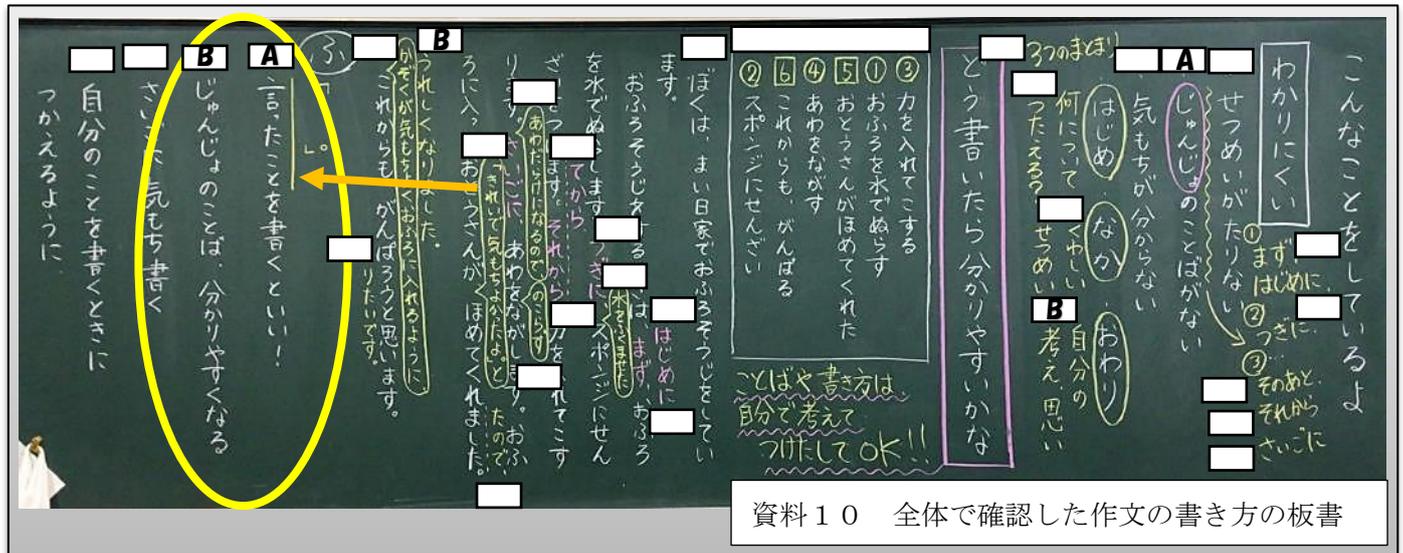
この単元を通してどんな力を付けて何ができるようにになりたいのかを明確にしてから、原稿用紙の使い方の学習をした。また、教科書に掲載されている「じょうほうのとびら」を活用し、分かりやすく伝えるには何に気を付けるとよいのかを考えた。Aは、「たんぼぼのときにやったじゃん。順序だよ。」と資料8の掲示を指さした。原稿用紙の使い方、はじめ、なか、おわりの組み立てで書くことなど、学習したことはすぐに振り返られるようにしておいた（資料8左）。

② 教科書のメモを使った作文練習

教科書に載っている青木さんのメモを使い、子供たちが同じメモで作文の書き方を考えて練習する時間を設けた。順序を意識できるように、順序を入れ替えたメモを用意し、分かりやすい説明になるように並べ替える活動を取り入れた。資料8の既習事項を活用し、子供たちは作文練習に取り組んだ。友達を考えから、Aはかぎを使って言ったことを書くと具体的になってより分かりやすいことに気付いた。Bは、はじめに、つぎになどの順序を表す言葉のよさに気付いた（黄丸枠）。

学習活動	時間	教師の支援
① みんなにつたえたいことを考えよう ・みんなに伝えたいことをメモに書き出す。 ・「ことばの力」を確認し、学習の見通しをもつ。	1	・子供たちが家でどんなことをしているのか問う。 ・自分が家でしていることで、みんなに教えたいことは何か問う。 ・「お手伝い」「遊び」「習い事」などのジャンルを提示する。 ・単元の見通しがもてるように、ことばの力「組み立てを考えて書く」を確認する。
② げんこうようしのつかい方をしよう ・正しい原稿用紙の使い方を理解する。	1	・原稿用紙の使い方の資料を提示する。 ・句読点の打ち方やかぎの使い方を教える。 ・はじめ、なか、おわりの3段落構成で書き、段落の初めは1マス空けることを教える。
③ 分かりやすく書くれんしゅうをしよう ・これまでに学習した「順序」について振り返る。 ・メモを正しい順序に並べ替える。 ・メモを元に作文を書いてみる。 ・どんな作文を書いたか共有する。	1 本時	・青木さんの動画を見せる。 ・説明する順序の大切さを再確認するために、「たんぼぼ」の学習や「じょうほうのとびら」で確認した順序を表す言葉を振り返る。 ・「青木さんのメモ」を並び替える活動を取り入れる。 ・「青木さんのメモ」を元に、子供たちが文章を書く練習の場を設定する。
④⑤⑥ わかりやすい文しょうを書こう ・自分のメモに書く順番を書きこむ。 ・原稿用紙の使い方に気を付け、順序を表す言葉を用いて文章を書く。 ・書いた文章を読んで、分かりやすく書いているかを確認する。	3	・書く順番を考えて番号を付ける時間を設ける。 ・前時の学習が振り返られるように、子供たちが書いた青木さんの作文を提示しておく。 ・正しい原稿用紙の使い方を思い出せるように、資料を提示しておく。 ・書き終わった文章を自分で読み返したり、青木さんの作文や正しい原稿用紙の使い方と比較して確認したりできる時間を確保する。
⑦⑧ ともだちの文しょうを読んでみよう ・読んだ感想や、分かりやすかったことなどを伝える。 ・「ことばの力」を振り返る。	2	・チームで交換して作文を読む場を設定する。 ・感想だけでなく、分かりやすい書き方を探して褒めてあげることを奨励する。 ・子供たちが身に着けた力を振り返り、これからの学習に生かす気持ちを高める声掛けをする。

資料9 「こんなことをしているよ」の単元計画



資料10 全体で確認した作文の書き方の板書

③ 自分のメモを使った作文練習

活動II-②で作文の書き方を理解した子供たちは、いよいよ自分のことを伝える作文に取り掛かった。

書くことに抵抗を感じていたはずのAは、黙々と作文に取り組み、原稿用紙2枚を書き上げて持ってきた。原稿用紙の使い方や、順序を表す言葉を一緒にチェックしていると、「あ、1ます空けるの忘れてる。」「『そして』が連続であるから、ここは『つぎに』に変えた方がいいか。」と、Aは自分で気付くことができた。

Bは、順序を表す言葉を正しく使って読みやすい作文を書くことができた。友達と読み合ったときにいくつか質問されたことで、清書には理由が付け足されてより分かりやすい作文となった。

「せっかく頑張ってるから発表したい。」というBの発言により、さらに次の単元「話そう、二年生のわたし」につなげて学習を深めていくことにつながった。

(4) 研究の成果と課題

(ア) 導入の工夫

身近なたんぼの秘密を探ることで、「知りたい」「やってみたい」という思いが生まれたことが自己評価シートからわかった。

教師の用意したモデル文に誤りがあることで、子供たちは「正しく直したい」と意欲的に活動に取り組むことができた。導入の工夫は、子供の夢中につながる有効な手立てだった。

(イ) 見通しの提示と、振り返りの充実

以下は、「1学期の思い出ナンバーワン」というお題で話した、Aのスピーチである。

「ぼくの思い出ナンバーワンは国語の授業です。分かりやすくて楽しかったです。できるようになったことが増えたと思いました。国語は嫌いだけど、作文もたくさん書いて発表もできてうれしかったです。」

何ができるようになったらいいのか、何ができるようになったのかを、自己評価シートや既習事項の掲示ではっきりと示したことで、子供たちは、既習事項を活用して学習に取り組むことができた。有効な手立てとなった。

(ウ) 考える時間（一人で・みんなで）の保障

一人でじっくり考える時間を設けることで、AもBも原稿用紙2枚の作文を書き上げることができた。また、友達との対話から、Bは理由を書いた方が分かりやすくなると考え、作文を書き直した。友達の発言を取り上げて振り返りを書く子供も多々いた。

しかし、実践の中で、学習を深める話し合いが停滞してしまうことが何度かあった。これは、一人学習の時間を確保できなかった場合に多く見られた。改めて一人で追求する時間の大切さを感じた。有効な手立てではあったが、時間を保証しきれなかったところに課題が残った。

A、Bそれぞれの作文を読むと、既習事項を生かして、夢中になって表現活動に取り組んだことが分かる。その作文を進んで発表した様子からも、楽しんで学習できたことや自分の学びに自信をもてたことが伝わった。今後も、表現活動に夢中になれる子供たちを育てていきたい。

